



中国の日本語教科書における外来語の文化提示： BCCWJと『分類語彙表』を踏まえた計量調査

張, 晶鑫
孫, 言

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 456:42-50

(Issue Date)

2022-03-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81013067>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013067>



中国の日本語教科書における外来語の文化提示
—BCCWJ と『分類語彙表』を踏まえた計量調査—

張 晶鑫(湖北大学)
zjx-kobe@hotmail.com
孫 言(湖北大学)
163060900@qq.com

Cultural Presentation of Loan Words in Chinese Japanese Textbooks
—A Quantitative Study Based on the BCCWJ and the *Bunrui Goihyo*—
ZHANG, Jingxin (Hubei University)
SUN, Yan (Hubei University)

概要

学習者にとって教科書は不可欠で最も頼りになる学習媒体である。本研究は、中国国内の日本語学科が使用している教科書に出現する外来語を研究対象に量的・質的に分析し、それらの言語特性と文化的志向性を調査した。その結果、言語特性としては、1) 基本的に名詞であること、2) 基本的に「(言語生活や大学生活での)関係」を表すこと、3) 縮約せず正確性を重視していることが挙げられる。また、それらが提示する文化的志向性としては、a) 国際化を常に図っていること、b) 異文化交流能力と正しい人生観の養成を重視していること、c) 日本社会のライフスタイルを紹介していること、d) 思考力を養うことなどがまとめられる。これらは今後の教材開発に参考になる知見であると思われる。

キーワード

日本語教科書 外来語 文化提示 BCCWJ 『分類語彙表』

1. はじめに

日本人は古くから様々な外来文化を摂取し続け、多くの外来語を取り入れてきた(清水, 2010)。文化受容の面から見れば、外来語は特に重要な位置を占めており、日本語教育の立場からみた場合、外来語は日本語学習者にとって日本文化を知る上での入り口となりうる。日本語学習者が外来語を学ぼうとする際に、まず依拠するのは日本語教科書であるが、現在の日本語教育現場で使用されている教科書はどのような外来語を重視し、どのような文化的志向性を持っているのかは不明である。本研究は、中国の日本語学科の必修科目である「基礎日本語」と「高級日本語」が使用している教科書をデータとして、教科書における外来語の言語特性と文化的志向性の解明を目指す。

2. 先行研究

外来語をめぐる議論は広く行われており、すべてを網羅することはそもそも不可能で、以下は本研究に関連する先行研究を、1) 外来語と文化受容、2) 外来語と他の日本語語彙、3) 外来語と教材の3つに分けて概観することとする。

まず、「外来語と文化受容」について、王玉芝(2004)は、日本は明治時代から西洋文化を取り入れ、1950年代以降の日本の文化や生活習慣はアメリカ文明・文化に全面的な影響を受け、

「英語化」の時代を迎えることになったと述べている。また、王鳴(2006)及び申秀逸(2006)は、日本は絶えず外来文化を吸収しており、異なる時期に導入された外来語の種類、規模、および導入方式には異なる特徴があると述べた。最初に「社会」「権利」「原子」など政治、イデオロギー、自然科学に関連する言葉が導入され、明治時代から大正時代にかけて、医学、哲学、登山などに関連する語が多く作られた。このように、多くの先行研究は外来語が反映している文化特徴を重視しており、外来語を手掛かりに文化指向性を調査することの可能性が裏付けられた。

次に、「外来語と他の日本語語彙」について、鄭成(2001)は、外来語を和語や漢語と比較し、日本語においてすでに同様の意味を表す語が存在するにもかかわらずさらに外来語を導入する理由を探った。その理由について、同論文は3つのことを挙げている。第一に、外来語といえば高級感やおしゃれ感といったイメージを与えることができる。例えば、「買い物」と「ショッピング」や「情報」と「インフォメーション」などである。第二に、細かな概念をより良く表現できる。例えば、音符の場合「速さ」より「テンポ」の方がより適切であると言えよう。第三に、和語で表す抵抗感をなくすことができる。例えば、「便所」と「トイレ」である。このことから、外来語を導入するのは新しい文化を受け入れるためだけでなく、それらが持つ言語特性も大きな決定要因であると考えられる。

最後に、「外来語と教材」について、龔志明(2001)はアンケート調査を行い、中国人日本語学習者が外来語を勉強する際の問題点を調査した。その結果、中国の日本語学習者が外来語を学ぶ主要な手段は教科書であり、教科書の中の外来語の数や種類の選択は日本語学習者の外来語学習に強く影響していること、英語由来の外来語が最も多く、学習者の英語力も外来語の学習に強く影響していることがわかった。この結果からもわかるように、教科書は日本語学習者にとってきわめて重要であり、教科書における外来語の提示は日本語学習者の文化理解を左右する可能性を持っている。

以上の先行研究は日本語における外来語の文化的志向性を認めており、学習者の外来語学習は主に教科書に影響されることを指摘し、多くの重要な知見を示している。しかしながら、幾つかの課題も残されている。まず、外来語と外来語の文化志向性と教科書の3つを組み合わせ分析した関連研究が少なく、教科書における外来語の文化的特徴は明らかにされていない。次に、具体的にどのような外来語が教科書において特に重要視されているか、それらがどのように分類できるかは不明である。最後に、質的分析が多く、大規模な言語データを使用した先行研究が少ない。本研究は客観的なデータを用いて日本語教科書における外来語の言語特性を明らかにした上で、教科書における外来語の文化的志向性の解明を試みる。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的とRQ

すでに述べたように、本研究の目的は教科書に出現する外来語の言語特性の解明と、それらが反映する文化的志向性の探究である。分析に先立ち、どの外来語を真に教科書が重要視しているのかを明らかにする必要がある。というのも、ある外来語が教科書の初級段階に導入され日本語における基本語とされていても、それが実際の現代日本語において多用される語であれば、教科書が特に重要視する語とは言えないからである。逆に、ある外来語が教科書の初級段階に導入され、かつ実際の現代日本語においてはほとんど使われないのであれば、それが教科書の特色語と言えよう。本研究は現代の「生」の日本語を代表する『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』をデータとして使用し、以下の2つリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 出現順に注目した場合、教科書が特に重視する外来語にはどのような特徴があるのか。

RQ2 種類に注目した場合、教科書が特に重視する外来語タイプにはどのような特徴があるのか。

3.2 データ

本研究は以下の3つデータを使用する。

第一に使用するのは中国国内の日本語学科の必修科目である「基礎日本語」と「高級日本語」のそれぞれに使われている教科書である。現在出版されている日本語教科書は多数に上るが、本研究ではケーススタディとして湖北大学が使用し、国内でも広く使われている北京大学出版社の『総合日本語(改訂版)』(第一冊から第四冊まで)と上海外語教育出版社の『日本語総合教程』(第五冊から第六冊まで)を対象とする。前者は大学一年生と二年生向けの「基礎日本語」という授業で使用される教科書であり、後者は大学三年生と四年生向けの「高級日本語」という授業で使用される教科書である。

第二に使用するのは『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』である。BCCWJは、国立国語研究所によって開発され、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築されたコーパスである。書籍、雑誌、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにわたって1億430万語のデータが格納されており、現代日本語の「縮図」とされている(山崎, 2009)。

第三に使用するのは『分類語彙表』のデータベース版である。これは、国立国語研究所が2004年に出版した書籍版の『分類語彙表-増補改訂版-』の元となったデータを加工したもので、レコード総数は、101,070件である。この分類枠組みには5つの階層があり、データとして収集された語を細かく分類しているが、1階層目と2階層目の分類は以下の通りとなる。

表1 『分類語彙表』における分類枠組み

「体の類」	「用の類」	「相の類」
1.1 抽象的關係	2.1 抽象的關係	3.1 抽象的關係
1.2 人間活動の主体		
1.3 人間活動-精神および行為	2.3 精神および行為	3.3 精神および行為
1.4 生産物および用具		
1.5 自然物および自然現象	2.5 自然現象	3.5 自然現象

3.3 手法

3.3.1 データの事前処理

まず、教科書の付録単語表にリストアップされたカタカナ語を出現順に電子化した。ただし、本研究の研究主旨と合わないため、総合日本語第一冊の第一課から第四課までの音声練習に偶然出現したものは対象外とした。次に、BCCWJの語種情報に照らし合わせて、ウーロン茶などの混種語、DJなどの英語の略語やアメリカのような固有名詞などを削除して純然たる外来語のみを残し、教科書に出現した外来語の単語表を作成した。なお、「キャンパス・スケジュール」のような複合語は、「キャンパス」と「スケジュール」の二つに分けることにした。

3.3.2 分析の手順

RQ1 について、一般的に、教科書は単語選択を慎重に行い、最初に教科書に採用された語は基本的で最も重要な語とされる。しかしながら、すでに述べたように、それらは教科書のみで

基本語彙とされているのか、または現代日本語においても多用される基本語彙であるかは不明である。本研究はこの点を明らかにするため、教科書における出現順と BCCWJ における頻度順を比較した。教科書における初出外来語 20 種は表 2 の示す通りである。

表 2 教科書における初出外来語 20 種

単語	出現順	単語	出現順
ユニット	1	カウンター	11
ガールフレンド	2	トイレ	12
サラリーマン	3	ホテル	13
ゼロ	4	レストラン	14
ボーイフレンド	5	ペンケース	15
センター	6	ペン	16
コース	7	ケース	17
キャンパス	8	ビル	18
スケジュール	9	スーパー	19
コンピューター	10	ラーメン	20

具体的に「出現順」-「頻度順」で両者の差を計算した。例えば「ボーイフレンド」という単語の教科書における出現順は 5 番目で、BCCWJ における頻度順は 576 番目であったため、差分値は-571 であった。最後にこの値を根拠に昇順で並び替えた。

外来語の出現順がその重要度と正確に比例するわけではないが、一般的にはその傾向があると認めてよいだろう。ここでは教科書に使用される外来語の特質を明確にするため、「出現順」の値が小さいほど、教科書の中で重要度が高い単語であるとみなす。逆に、「頻度順」の値が小さいほど、その単語の頻度が高いということになり、現実の日本社会ではより重要な単語として認識されているということになる。「出現順」-「頻度順」の差がプラスであれば、教材における「出現順」の値が BCCWJ における「頻度順」の値より大きいということを意味し、すなわち、BCCWJ では使用頻度が高く、重要な語であるが、教科書においては後方に出現した語で、それほど重要な語ではないと認識されたこととなる。逆にこの差がマイナスであれば、教材における重要性が BCCWJ での重要性よりも大きいと判断されることになる。

RQ2 について、『分類語彙表』と照らし合わせて語彙分類を行った。なお、この分類においても BCCWJ との比較を行った。これは教科書においてどのタイプの語が特に重要視されているかを特定するためである。また、教科書における外来語の数は BCCWJ より圧倒的に少ないため、今回の比較は BCCWJ において使用頻度の上位 500 語のみを対象とし、語彙分類を行うことにした。最後に、各分類が示す割合を計算し、質的に観察を行った。なお、『分類語彙表』に記載されていない語については当該語と同様の意味を表す語の分類情報を利用した。例えば、「ツール」という語に「道具」の分類情報を利用し、「体→生産物→道具」というように処理した。

4. 結果と考察

4.1 RQ1 出現順に注目した場合の外来語の特徴

6 冊の教科書を調べたところ、598 種の外来語が確認された。また、教科書における「出現順」と BCCWJ における「頻度順」を比較したところ表 3 の結果を得た。紙幅の関係でここでは上位 20 種のみを示す。表中の差分値は両者の順位差を表している。すでに述べたように、この差分値の値が小さいほど、当該語は BCCWJ に比べて教科書がより重視している語であると判断さ

れる。

表 3 教科書が重視する外来語上位 20 種

単語	出現順	頻度順	差分値
ボーイフレンド	5	576	-571
ペンケース	15	550	-535
マントウ	57	577	-520
イーメール	53	568	-515
ギョーザ	33	540	-507
ネットゲーム	36	543	-507
トンポーロウ	83	587	-504
ニュースレター	28	522	-494
マーボードーフ	94	588	-494
バイチュー	101	589	-488
ネットカフェ	22	506	-484
インターネットカフェ	50	532	-482
タンタンメン	98	578	-480
ガールフレンド	2	464	-462
チンジャオロース	95	545	-450
コンパ	32	481	-449
ホイコーロー	97	526	-429
ルームメート	132	547	-415
タスクシート	192	590	-398
ワンタン	96	489	-393

上表よりわかることは 3 点ある。

まず、1 点目は英語由来の外来語が多いということである。代表として、「ボーイフレンド」「ガールフレンド」「ペンケース」などの語を挙げることができる。同様の意味を表す和語の「彼氏」「彼女」「筆箱」などよりも先に学生に紹介されている。このことについて 3 つの理由が考えられる。一つ目は、ストーリーの背景要因である。『総合日本語』は舞台を中国の「京華大学(仮名)」に設定し、主人公の王宇翔さんと高橋美穂さん(日本からの留学生)の 2 人をめぐり全体のストーリーは展開している。すなわち、国際化された環境をベースにしている。このため、より普遍性の高い外来語「ボーイフレンド」と「ガールフレンド」を先に紹介したのだと思われる。2 つ目は、中国人日本語学習者の英語に対する馴染み要因である。ほとんどの大学生は小学校から英語を勉強しているため、英語に馴染んでいる。したがって、初心者にとって、英語由来の外来語は日本語の和語よりも理解しやすく、教科書もこのことを考慮して外来語を選択したのだと思われる。3 つ目は外来語の特殊な発音要因である。中国と日本では、英語の読み方に大きな違いがあり、これは学習者にとって面白いことで、結果として学習者の興味を引くことができるとと思われる。

2 点目は学生の生活に密着した言葉が多いということである。代表として、「ペンケース」「イーメール」「ネットゲーム」「ニュースレター」「ネットカフェ」などの語を挙げることができる。この中には学習に関する言葉としては、「ペンケース」「タスクシート」が、娯楽に関する言葉としては、「ネ

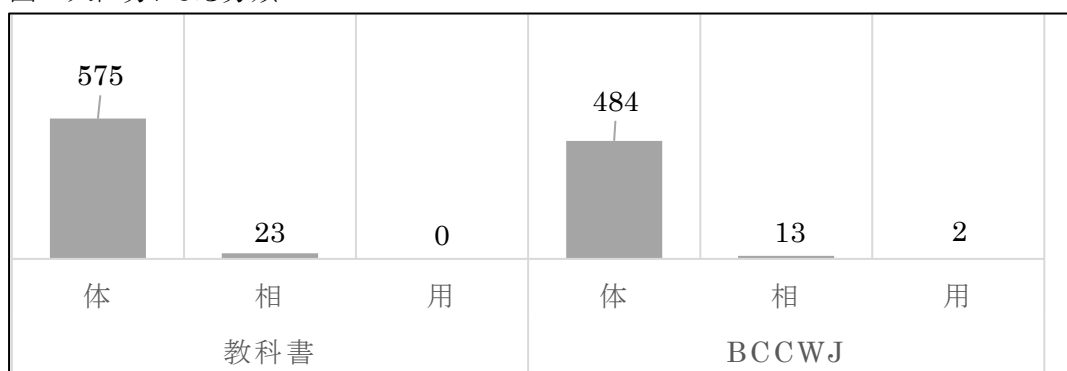
ットゲーム」「ネットカフェ」「インターネットカフェ」「コンパ」が、ソーシャルネットワークに関する言葉としては、「イーメール」「ニュースレター」が挙げられる。これは学習者の日本語学習の抵抗感を少なくし、生活での実用性をアピールしたためであると思われる。

最後に、3 点目は日本でも有名な中華料理の名前が多いということである。代表として、「マントウ」「トンポーロウ」「ギョーザ」「マーボー豆腐」などの語を挙げるができる。このような語をあえて教科書に多く採用したのは、中国文化の発揚と異文化交流を意図的にさせたためであると思われる。

4.2 RQ2 種類に注目した場合の外来語タイプの特徴

国立国語研究所が開発した『分類語彙表』のデータベースに照らし合わせ、外来語の分類を行ったところ、教科書においては 598 語のうち、575 語が「体」の類に分類され、23 語が「相」の類に分類された。BCCWJ では 500 語のうち、484 語が「体」の類に、13 語が「相」の類に、2 語が「用」の類に分類された。

図 1 大区分による分類



柏野(2006)によれば、「体」とは名詞の仲間であつて、何、何ごと、何もの、どれ、だれ、いつ、どこ、いくつ>などの概念を表す語と、それらを問いとしたときの答えとなるべき語であり、「相」とは形容詞の仲間であつて、<ない>に関するもののほか、<どう、どうだ、どんな、どんなに>などの答えとなるべき語である。すなわち、どの領域においても「体」が最も多く、現代日本語において外来語は基本的に「名詞」として使われることが示された。

次に、「体」の類に絞って分析を行い、表 4 の結果を得た。なお、大分類は「部門」に基づくものであり、小分類は「中項目」に基づくものである。「関係」「主体」「活動」「生産物」「自然」はそれぞれ、抽象的な関係、人間活動の主体、人間活動—精神・行為、生産物・用具、自然物・自然現象の略称である。

表 4 『分類語彙表』による分類

教科書				BCCWJ			
大分類	小分類	割合	例	大分類	小分類	割合	例
活動 33%	言語	9.7	イーメール, ニュースレター	関係 31%	量	10.7	メートル, グループ
	生活	7.5	ネットゲーム, ホームステイ		作用	5.6	サービス, アップ
	心	5.4	アクセント, レジューメ		空間	3.3	ページ, センター
	芸術	2.8	テレビドラマ, セルアニメ		類	3.1	タイプ, モデル

	交わり	2.4	コンパ, ファッションショー		様相	2.5	システム, インターネット
	事業	2.3	クローズアップ, プリントアウト		時間	2.1	チャンス, シーン
	経済	1.2	ネットショッピング, ショッピング		事柄	1.2	データ, ファイル
	待遇	0.7	タブー, アドバイス		存在	1.0	スペース, デビュー
	行為	0.5	カンニング, リーダーシップ		形	0.6	チェック, サイズ
生産物 31%	道具	7.0	マグカップ, タスクシート	生産物 26%	力	0.4	エネルギー, パワー
	食料	6.4	マントウ, ギョーザ		道具	4.3	カード, バッグ
	機械	5.9	オートバイ, スキャナー		資材	4.3	ネット, ガス
	衣料	4.3	イヤリング, ブラウス		機械	4.1	テレビ, パソコン
	住居	3.5	マイルーム, フレーム		住居	4.1	バス, ドア
	資材	2.6	ストラップ, ネット		食料	3.9	パン, タバコ
	物品	0.9	コイン, クーポン		衣料	2.7	ベッド, シヤツ
	土地利用	0.3	ランド, サイト		土地利用	1.9	グリーン, トンネル
関係 21%	作用	4.5	ワンタッチ, フリータイム	活動 25%	物品	0.6	チケット, パーツ
	量	4.5	パーセント, ユニット		言語	6.8	メール, ファックス
	時間	2.4	ゴールデンウィーク, リアルタイム		生活	5.2	クリック, スポーツ
	類	2.3	クラス, ジャンル		心	4.5	イメージ, テーマ
	様相	2.1	スランプ, デメリット		芸術	2.1	デザイン, ドラマ
	空間	2.1	レジカウンター, センター		事業	1.9	ビジネス, ライブ
	形	1.0	ロール, ストライプ		経済	1.7	コスト, オークション
	事柄	0.9	ペンケース, ケース		交わり	1.4	イベント, コンサート
	存在	0.7	キャンセル, マーカー		待遇	1.0	アドバイス, ケア
	力	0.2	エネルギー		社会	4.1	ホテル, クラブ
主体 12%	成員	3.7	ポップアーティスト, キャスター	主体 13%	成員	3.9	メーカー, ファン
	社会	3.3	ネットカフェ, インターネットカフェ		人間	1.4	ボーイベビー
	人物	1.4	ツーリスト, サラリーマン		機関	1.2	チーム, パーティー
	仲間	1.2	ボーイフレンド, ガールフレンド		人物	1.2	プロ, ボランティア
	機関	1.0	サークル, シヤドーキャビネット		家族	0.6	パパ, ファミリー
	人間	0.7	アジュマ, ムスリム		仲間	0.4	ゲスト, パートナー
	公私	0.3	キャンパス, マイホーム		公私	0.2	シティー
	家族	0.2	ホストファミリー		植物	1.2	トマト, オレンジ
自然 4%	動物	1.2	パンダ, コンパニオンアニマル	自然 6%	自然	1.2	ブルー, ピンク
	物質	1.2	スモッグ, プラスチック		物質	1.0	イオン, バブル
	植物	0.5	バナナ, バクテリア		動物	0.8	ペット, マウス
	生命	0.3	シンドローム, インフルエンザ		身体	0.8	ホルモン, ハート
	身体	0.2	ヘア		生物	0.2	ビタミン
	自然	0.2	ピンク		天地	0.2	サン
	天地	0.2	ジャングル				
	生物	0.2	ウイルス				

表 4 よりわかることは 4 点ある。

まず、1 点目は分類タイプの構成が異なるということである。大分類の割合に注目すると、教科書では「活動」>「生産物」>「関係」>「主体」>「自然」の関係性が示されたが、BCCWJ ではそれが「関係」>「生産物」>「活動」>「主体」>「自然」の順に変わった。このことは BCCWJ に比べて教科書は「人間活動—精神・行為」に関する外来語をより重視することを示している。この中で興味深いのは「生産物」と「自然」の関係と、「活動」と「関係」の関係が対立していることである。外来語は基本的に自然のものを表すよりもある主体や集団によって生産されたものを表すと思われる。この傾向は教科書においても、BCCWJ においても同じである。ただし、「活動」と「関係」の関係については教科書と BCCWJ で重視する側面が異なる。「活動」というのはある主体や集団が能動的、積極的に行う行為とその内容を表し、「関係」というのは受動的に受け入れるもので基本的に主体や集団の意思に左右されない客観的な事象である。BCCWJ の傾向を踏まえれば、現代日本語においては外来語が基本的に「関係」を表すものであるが、教科書では特に「活動」を重視している。例えば、言語生活に関する「イーメール」や「ニュースレター」など、大学生活に関する「ネットゲーム」や「ホームステイ」など、授業に関する「アクセント」や「レジメ」などが挙げられる。

次に、2 点目は同じ分類タイプにおいても、重視する外来語が異なるという点である。例えば、「活動-待遇」という分類において、教科書では「タブー」「アドバイス」が、BCCWJ では「アドバイス」「ケア」が代表として挙げられる。すなわち、日本語教科書は日本語を教えると同時に異文化交流に関して文化の違いやタブーが存在することを学習者に教えるべきことを念頭においていることがわかる。また、同じ「活動」の分類でも、「行為」という小分類が教科書のみに見られた。例としては「カンニング」や「リーダーシップ」などがあるが、これは学習者に大学生としてあるべき姿を教えるもので、試験での「カンニング」禁止や、社会における「リーダーシップの養成」が重要な学習内容であることを明示している。

そして、3 点目は日本固有のライフスタイルに関する語が多いということである。例えば、「イーメール」や「ホームステイ」「レジメ」などの語は日本ではよく使われるが、中国の日本語学習者にとってはそれほど馴染んでいない。現在の中国では QQ や WeChat などのアプリケーションを通じてやりとりをするのが一般的で、メールを書くことがまだ普及していない。また、本物の「ホームステイ」を経験した学生が少なく、実際の中国での授業でも「レジメ」を作るのは主流ではない。これらの外来語を通して学習者は日本のライフスタイルに触れ、日本社会に対する理解を深めることができるだろう。

最後に、4 点目は教科書では長い外来語を縮約しないということである。例えば、教科書では「イーメール」と書いてあるが、BCCWJ では「メール」が多く使われている。教科書では「テレビドラマ」と書くが、BCCWJ では「ドラマ」がより一般的である。このことは、教科書は日本語としての「標準性」を重視し、BCCWJ は言語生活での「経済性」「利便性」を重視することを意味しているといえよう。これは文化提示とは直接関係がないように思われるが、これは学習者に外来語の語源を考えさせ、元の言語との比較を行うことで思考力を養うことができよう。

5. まとめ

以上、6 冊の教科書をケーススタディとして教科書における外来語にはどのような言語特性があり、それらがどのような文化的特徴を持ち、どのタイプの語が特に重要視されているのかを調べてきた。RQ1 では大学生の生活に密着した語や中国の伝統文化に関する語、同じ意味を表す和語・漢語よりも学習者の英語に対するなじみを考慮した外来語を優先していることがわかった。RQ2 ではある主体や集団が能動的に、積極的にを行う行為とその内容を表す「活動」というタイプの語、異文化交流に関する注意点や正しい人生観を養成する語、日本固有のライフスタイルを紹介する語と思考力を養う語が多いことがわかった。教科書に出現した外来語を調査するこ

とで、それらの言語特性としては、1) 基本的に名詞であること、2) 基本的に「(言語生活や大学生活での)関係」を表すこと、3) 縮約せず正確性を重視していることが挙げられる。また、それらが提示する文化的志向性としては、a) 国際化を常に図っていること、b) 異文化交流能力と正しい人生観の養成を重視していること、c) 日本社会のライフスタイルを紹介していること、d) 思考力を養うことなどがまとめられる。

これらは今後の教材開発に参考になる知見であるが、課題も残されている。例えば、今回調査対象としたのは 6 冊の教科書のみで、今後さらに範囲を広げる必要がある。また、これらの外来語が学習者の文化に対する思考に具体的にどのような影響を与えたかを調査する余地がある。今後はこれらの問題についても研究を進めたい。

参考文献

- [1] 龚志明. 日语教育中外来语的学习[J]. 外语研究, 2001(03):73-75.
- [2] 申秀逸. 日语外来语的来源与作用[J]. 燕山大学学报(哲学社会科学版), 2006(07):35-38.
- [3] 王鸣. 日本外来语输入的历史考察[J]. 日语学习与研究, 2006(03):86-89.
- [4] 王玉芝. 关于日语西化现象分析——以来自英语的外来语为例[J]. 日语学习与研究, 2004(02):84-89.
- [5] 郑成. 试析日语外来语与日本的社会心理[J]. 日语学习与研究, 2001(04):20-23.
- [6] 柏野和佳子. 分類語彙表』の特徴と位置付け[J]. 日本語科学, 2006(19):143-160.
- [7] 清水稔. 外来文化の受容の歴史から見た日本の外国語学習と教育について[J]. 佛教大学文学部論集, 2010(94):1-14.
- [8] 山崎誠. 代表性を有する現代日本語書籍コーパスの構築[J]. 人工知能学会誌, 2009(24)(5):623-631.